

令和4年度 ICT 活用事例報告書

学部 : 中学部
事例項目 ○ 人間関係形成・社会形成能力 ・ 集団の中で、自分の思いや意見を表現する。
事例項目を踏まえた ICT 活用上の工夫 朝の会における日直の役割を通して、友だちや教師とかかわり合うことの楽しさを実感するために VOCA アプリ「しゃべるんです」を活用する。
対象学習グループ・児童生徒とその実態 <ul style="list-style-type: none">・ 生徒Aは、朝の会において日直の仕事をする際には、友だちの顔写真を指さしたり、献立発表の友だちにホワイトボードを渡したりすることはできるものの、相手の顔を見たり、言葉のキャッチボールがあったりするわけではない。・ 発語による有意語はほとんどなく、音声による表出も喃語が中心ではあるが、内言語は生活経験を中心に、教師の言葉かけで理解できる固有名詞も多い。・ 手指の巧緻性に乏しいため、タブレット端末を用いたコミュニケーションの際には、タップ時の誤入力等に留意する必要がある。
事例項目を踏まえた ICT 活用の実際と事例項目に係る力の育成について
1 授業の概要 <ul style="list-style-type: none">・ 週に1回、朝の会において日直の仕事をする際、iPad を用いながら健康観察や下校方法の確認などを行っている。・ 総合的な学習の時間や生活単元学習で調べ物学習をしたり、発表をしたりする際にもこのアプリを活用し、イラストや写真、文字を手がかりにしながら、音声でのやりとりを集団の中でできるようにしている。
2 ICT の活用 <ul style="list-style-type: none">・ アプリは「しゃべるんです」を使用し、友だちの音声を録音したり、アプリ内に入っている音声を使用したりして本人の代わりに音声でやりとりができるようにしている。・ 誤操作が少なくなるように、アクセシビリティのアクセスガイド機能を使って、ホームボタンを反応しなくしたり、触れても反応しないエリアを設定したりしている。
3 事例項目に係る力の学習グループ・児童生徒の変容 <ul style="list-style-type: none">・ iPad を使用する前は、友だちの顔写真を指さすとともに教師が間に入ることで、友だちとのやりとりが成立していたが「しゃべるんです」を使用することで（操作時に教師の支援は必要なものの）、生徒同士で成立するやりとりがより多くの場面で見られるようになってきている。・ 使用開始時は、どこを押せば良いかわからずホームボタンを押して使用を拒否することもあったが、使いやすさを改善しながら使用を重ねていくと、笑顔を浮かべながら操作する姿も見られるようになってきている。・ 朝の会で日直をする際には、自分から iPad を使おうとする姿も見られるようになってきており、積極的に画面をタップしようとする様子が見られている。・ 下校方法の確認で間違えた際には、友だちの方から「違います。〇〇です。」と正しい下校方法を生徒Aに教えてくれるので、生徒Aも画面の中から対応するイラストを押し直すことができ、言葉のキャッチボールが成立している。
ICT 活用に係る今後について <ul style="list-style-type: none">・ 主にコミュニケーションツールとしての使用が多かったが、スケジュール機能を活用することで、生徒が活動の見通しを持ち、今よりもさらに安定した状態で日々の生活を送ることができるようなツールとしても使用していきたい。・ いつでも、どこでも、だれとでも使える ICT を目指し、より効果的でより使いやすい手段となるように、使用するアプリやアクセシビリティについて、最新の情報を積極的に取り入れていく必要がある。
今後の「キャリア教育全体計画の育てたい力」の育成について <ul style="list-style-type: none">・ 「集団の中で自分の思いや意見を表現する」には、場所や時間、相手に関わらず、本人が自分の気持ちや意思を伝えられる手段が必要だと考える。それには、教師が代弁したりカードを指さしたりするなど、様々な方法が考えられる。ICT もその一つではあるが、今後は生徒が一人でも ICT 機器を活用して自分の思いや意見を表現できるようにするために必要な支援を考えていきたい。

別添資料

図1 健康観察の画面



図2 下校方法の確認の画面



・画面の写真やイラストをタップすることで、音声を出力することができます。音声は読み上げ、録音から選ぶことができます。タップした物は画面下の黄色い部分に蓄積されていき、その状態で黄色い部分をタップすると蓄積されたものが連続で再生されます。（文章で出力することができます。）リンク機能もあり、他の画面に移動することも可能です。

図3 アクセスガイドの画面



図4 タップ不可領域の設定



・iPadのアクセシビリティ機能（アクセスガイド）を設定することで、誤操作を減らすことができます。例えば、ホームボタンやボリュームボタンを反応しないようにしたり、タップできない部分を設定したりすることができます。ただし、画面が移動した後もその設定は残ってしまうので、注意が必要です。

紹介：PPT教材、アプリ等 ICT 関連の参考となるサイト

特別支援教育のための
 プレゼン教材サイト
 Teach U
 ティーチ ユー
<https://musashi.educ.kumamoto-u.ac.jp/>

・熊本大学教育学部附属特別支援学校の後藤先生が主催しているサイトです。PPT教材が教科毎にDB化されており、自由にDLすることができます。



・帝京大学教育学部教授の金森先生が主催しているサイトです。研究主体は肢体不自由教育ですが、特別支援教育に関連して、広く ICT に関する情報を提供してくれています。